

くすりのしおり

内服剤

2022年12月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

製品名：カバサル錠 0.25mg [生殖補助医療に伴う卵巣過剰刺激症候群の発症抑制]

主成分：カベルゴリン(Cabergoline)

剤形：白色の錠剤、直径 5.5mm、厚さ 2.8mm

シート記載など：CABASER 0.25mg、カバサル錠 0.25mg、社マーク、Pfizer、カベルゴリン、C.



この薬の作用と効果について

ドパミン D₂受容体を刺激し、プロラクチンというホルモンの過剰分泌を抑えることにより、生殖補助医療に伴う卵巣過剰刺激症候群（腹部膨満感、吐き気、腹水など）の発症を抑えることが期待できます。通常、生殖補助医療に伴う卵巣過剰刺激症候群の発症を抑えます。

次のような方は注意が必要な場合があります。必ず担当の医師や薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。心臓弁尖肥厚、心臓弁可動制限およびこれらに伴う狭窄などの心臓弁膜の病変またはその既往歴がある。妊娠中毒症、産褥期高血圧がある。胸膜炎、胸水、胸膜線維症、肺線維症、心膜炎、心嚢液貯留、後腹膜線維症またはその既往歴がある。消化性潰瘍や消化管出血またはその既往歴がある。レイノー病がある。精神病またはその既往歴、低血圧症、心血管障害またはその既往歴がある。下垂体腫瘍が進展し視力障害などがある。肝機能障害またはその既往歴がある。
- ・妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（：医療担当者記入）
- ・通常、1回2錠（主成分として0.5mg）を1日1回、最終的な卵胞成熟の誘発日または採卵日から7～8日間、就寝前に服用します。必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・飲み忘れた場合は、気がついた時に1回分を飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は1回とばして、次の飲む時間に1回分を飲んでください。絶対に2回分を一度に飲んではいけません。
- ・誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。吐き気、嘔吐、胃部不快感、幻覚（実際には存在しないものを存在するかのよう感じる）、妄想（根拠が無いのに、あり得ないことを考えてしまう、論理的な説得を受け入れようとしない）、頭重感、めまい、起立性低血圧（脱力感、めまい、ふらつき、立ちくらみ、気を失う）があらわれることがあります。いくつかの症状が同じような時期にあらわれた場合は、ただちに受診してください。
- ・医師の指示なしに、飲むのを止めないでください。

生活上の注意

- ・急に眠くなったり、血圧の低下により立ちくらみなどを起こすことがありますので、車の運転、機械の操作、高いところでの作業などの危険を伴う作業は避けてください。
- ・妊娠を希望する場合には、妊娠を早期に確認するために定期的に検査を行ってください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、吐き気、頭痛、起立性低血圧などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・実際には存在しないものを存在するかのよう感じる、根拠が無いのにあり得ないことを考えてしまう、気を失う [幻覚、妄想、失神、せん妄、錯乱]
- ・発熱、から咳、呼吸困難 [間質性肺炎]
- ・胸が痛い、むくみ、呼吸困難 [胸膜炎、胸水、胸膜線維症、肺線維症、心膜炎、心嚢液貯留]
- ・息苦しい・息切れ、むくみ、動悸 [心臓弁膜症]
- ・背部痛、足のむくみ、尿量減少 [後腹膜線維症]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

- ・乳幼児、小児の手の届かないところで、光、湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄方法がわからない場合は受け取った薬局や医療機

関に相談してください。他の人に渡さないでください。

- ・[ご家族の方へ]患者さんに衝動制御障害（病的な賭博、病的な性欲亢進、過剰で無計画な買い物、暴食などの衝動的な行動を起こすこと）があらわれることがありますので、患者さんの言動に注意していただき、このような症状があらわれた場合は、医師に相談してください。

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療関係者向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。